

林業復活と木の文化再生目指し

耐震性抜群、低コスト「j.Pod」

新工法で木造建物

清水町上湯川の京都大学フィールド科学教育研究センター和歌山研究林で、同センターなどが開発した木造の新工法「j.Pod」による教育研究棟(2階建て、約70平方メートル)が完成した。同工法は、従

清水の京大研究林に完成

新工法は標準寸法で横3・6メートル、縦2・7メートルの字型にした材木を、2組重ねて四隅を鋼板とボルトで固定。この木枠

「リフフレーム」を45度

間隔で7列並べ、はりと筋交いで結合する。これ

で出来る6畳間のコンテナのようなユニットを基本単位とし、縦横に組み合わせて建物にする。四

隅をしっかりと固定し、複数のフレームで支える構造のため、震度7の地震にも耐えられる。リフフレームを工場で作れば、現場はボルトを締めただけなので、小さな建物なら1日で組み立てることも可能。木材は間伐材も使えるので、量産化すれば大幅にコストダウンできる。

教育研究棟はユニット3個を組み合わせた2階「i」と話した。

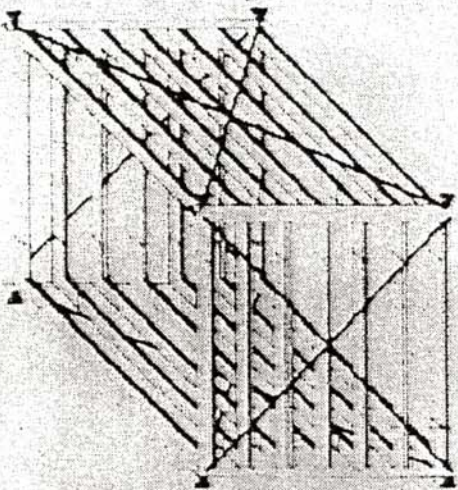
来の木造建築に比べ大幅にコストダウンでき、耐震性が高く、4階建ても可能。同センターは「林業復活につなげ、木の文化の再生を目指す」としている。

【辻加奈子】

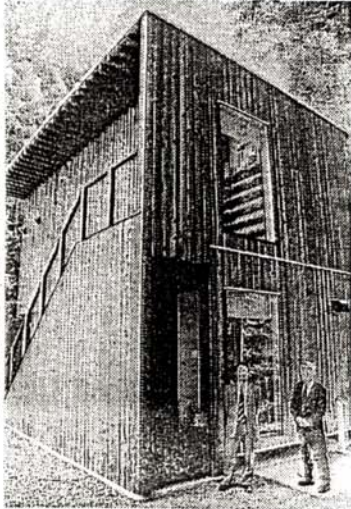
建て。3月11日着工、31日に完成した。総工費約500万円。同棟のほか、京大構内にも1棟完成している。

都市と森の循環的共存システム「森里海道環翠」の構築と、「木の文化再生」を提唱している田中克・同センター教授は「自然環境再生には日本の木、特に人工林をどれ

だけ有効に使えるかが重要。j.Podを林業振興と森の再生につなげ、全国



新工法「j.Pod」の基本となるリフフレームを並べて結合したユニット



「i.Pod」で建てられた京都大和歌山研究林の教育研究棟